

## 令和3年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	ひきこもり当事者支援及び家族支援		
事業主体	実施団体	市（関係課）	
	特定非営利活動委法人リンク	社会福祉課	

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付確定額）
	299,330円	297,000円	297,000円

### 【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

#### 【事業概要】

- 1, ひきこもりの方及びそのご家族が集まり、お互いに気持ちを出せる場を創出する。
- 2, ひきこもりの方を持つ家族が集まり、自主的にひきこもりの家族会の組織化を行う。
- 3, ひきこもり当事者が集い、社会参加するきっかけを作り、自宅以外の居場所を作る。
- 4, 広く地域住民にひきこもりについて考える機会を提供する。
- 5, ひきこもりの定期相談会を開催し相談の機会を拡大する。

#### 【地域課題】

2020年1月から蔓延している「新型コロナウイルス」の影響で、私たちの生活そのものが急激に変化し、これまでは積極的に外出や人の交流がうたわれ地域活動等が盛んにおこなわれていましたが、長引くコロナ禍ではむしろ「ステイホーム」が称賛されるなか「新たな生活様式」を取り入れた活動が推奨されました。

しかしながら、この長引くコロナ禍においては、家庭・学校・地域で様々な課題に直面し、特に、虐待や貧困といった課題も増悪する等新たな局面を迎えました。当然、従来の「ひきこもり」の課題と、このコロナ禍での就職難といった状況と併せて本事業3年目の活動を行いました。

#### 【事業実施】

講師：ひきこもり家族会カウンセラー 阿部達明氏

#### ○心のいずみ（ひきこもり当事者の集い）

対象者：ひきこもり者（対象者例：人と会うことが負担に感じ悩んでいる方、外出したいけれど気持ちがついてこず、ひきこもりがちな生活をしている方、社会へ一歩踏み出したいが踏み出せず悩んでいる方等及びその支援者等）

実施方法：今年度は、新型コロナウイルスのため、公民館の使用が困難となり、急遽、オンライン（ZOOM）での開催となった。講師を交えての話し合いを行った。

(第5回) 令和3年9月27日(月) 13時～15時

会場：オンライン(ZOOM)

(第6回) 令和4年1月17日(月) 13時～15時

会場：オンライン(ZOOM)

### ○ひきこもり家族の集い

対象者：ひきこもり者を抱えるご家族および支援者等

実施方法：会場で講師を交えての話し合いを行った。

(第5回) 令和3年7月19日(月) 13時～15時

会場：大網白里市中央公民館

(第6回) 令和3年11月15日(月) 13時～15時

会場：大網白里市中央公民館

### ○個別相談会

対象者：ひきこもり当事者及び家族や支援者等

実施方法：会場で講師と1対1の相談とオンライン(ZOOM)での個別相談を実施。

(第1回) 令和3年8月16日(月) 13時～15時 流会

(第2回) 令和3年10月18日(月) 13時～15時

会場：大網白里市中央公民館

(第3回) 令和3年12月13日(月) 13時～15時

会場：大網白里市中央公民館

(第4回) 令和4年2月21日(月) 13時～15時

会場：オンライン(ZOOM)

### ○市民公開講座

対象者：市民

実施方法：会場での講演会

開催日：令和3年6月29日(火) 13時30分～16時30分

講演：「ひきこもりの現在・過去・未来～本人・家族・学生支援の現場レポート～」

講師：千葉県社会福祉士会 理事 秦野隆治氏(社会福祉士・精神保健福祉士他)

## 【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

○事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。

○協働で行うことでどのような効果が得られたか。

○住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。

○事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

### 【事業内容と目標達成度】

#### ○心のいずみ（ひきこもり当事者の集い）

対象者を、ひきこもり者（対象者例：人と会うことが負担に感じ悩んでいる方、外出したいけれど気持ちがついてこず、ひきこもりがちな生活をしている方、社会へ一歩踏み出したいが踏み出せず悩んでいる方等及びその支援者等）として上記の通り2回実施した。

新型コロナウイルスのために、事業の継続が危ぶまれたが、事前に申し込まれた方がほとんどであり、中止をすることで、社会参加の機会を喪失することの影響を考慮し、オンライン（ZOOM）で実施した。

参加者総数：24名

#### ○ひきこもり家族の集い

対象者を、ひきこもり者を抱えるご家族および支援者等とし、予定通り、会場での実施をすることで、家族が直接、同じ悩みを抱える家族との交流を図ることができた。また、会の終了後は、家族同士の交流が図られた様子が見られた。

参加者総数：34名

#### ○個別相談会

対象者を、ひきこもり当事者及び家族や支援者等とし、講師と1対1の相談会を実施した。時間を45分から60分（時には、超過することもあり）を1組確保することで、普段、家族だけで悩んでいることを相談することで、次の支援策を見つけることができた。必要に応じて医療機関や支援機関につなぐことができた。

相談者総数：6組

\*第1回目は、新型コロナウイルス感染下のため参加者から相次いでのカンセルと講師の県外移動困難状況及び会場の確保が厳しい状況より流会とした。

#### ○市民公開講座

公開講座の目的

- 1, ひきこもりに関する理解を促し、支援方法等を知る。
- 2, ひきこもり支援に関心のある地域住民を発掘する。
- 3, 行政はじめ関係機関の理解と協力を得ることで、今後の、大網白里市のひきこもり当事者及びご家族、支援者が相談につながりやすくなるため、市民公開講座を実施した。

参加者は64名であり、広く市民の興味関心があることが理解できる。

また、個別相談会を開催し、2組の相談を受け付け、支援機関への紹介を行った。

**【効果と満足度】**

○市民公開講座において参加者アンケートから効果分析を行った。

1, 市民公開講座参加者属性

・関係機関 54% ・家族等 30% ・支援者等 16%

2, 講演内容の満足度

・とてもよかった 40% ・よかった 50% ・普通 10%

4, グループワークの満足度

・とてもよかった 35% ・よかった 50% ・普通 15%

5, 大網白里市で必要と思われるひきこもり支援

・住民理解 30% ・相談窓口 25% ・訪問相談 30% ・その他 15%

このように、アンケート集約することで、市民が何を求めているか（理解・相談・支援）が明確になり、このニーズを把握することが本事業を実施した意味があること。

○「心のいずみ」でのゲストスピーカの参加

1月17日に開催した、「心のいずみ」において千葉県 KHJ 菜の花会会長をお呼びし、今後の家族会の設立に向け動機づけを行ったことで、家族より継続実施の要望がある。

**【他団体との協力】**

地域包括支援センターまたは在宅介護支援センター、フリースクール、障がい者支援機関、医療機関、生活困窮者自立相談支援事業所、社会福祉協議会、民生員、健康福祉センター等行政等が市民公開講座に参加。日ごろからの事業周知と対象者への声掛けを行っていただいた。

**【波及効果】**

個別での相談だけではなく、本事業で実施する会や相談会への対象者の誘導を支援機関等が行ったことで、各会の参加者が一定程度維持することができた。

また、参加者の一部から強く事業継続を望む言動があり、社会福祉協議会等での事業継続を交渉され、今後、社会福祉課において会を実施する際の会場借用を行うこととなった。

協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・住民の方々に安心して参加してもらうことができ、講師の方々にもスムーズにお越しいただけた。 ・広く周知を図ることもでき、会場の予約や会場設営、新型コロナウイルスの感染拡大	<input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) 講師を招き専門的知見も適宜交えながら、参加者の思いを聴くことができたため。

防止対策等細かなところを含め事業をより円滑に実施することができた。 ・ひきこもりの現状や実態について共有することができた。	
--	--

### 【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座の企画、運営、実施</li> <li>・家族の集い、心のいずみ（当事者の集い）の企画、運営、実施</li> <li>・個別相談会の実施</li> <li>・周知（ポスター掲示、チラシ配布）</li> <li>・個別の相談対応</li> </ul> その後のフォローアップ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市広報を通じて各種相談会を広く呼び掛けるとともに、集う場所（公共施設）の提供により生きづらさを抱えた方、家族の居場所づくりを支援する。</li> </ul>

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった ・ひきこもりの支援についての民間のノウハウを生かしながら企画、運営、実施については柔軟に行うことができ、周知等については行政の住民や関係各課との幅広いパイプを生かし広く周知を図ることができた。市担当者と打ち合わせながら実施できたことで、民間、行政の双方の視点を持ち寄ることができた。	<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） コロナ禍に伴う感染予防に重きを置くため、公共施設での相対による実施が困難となった際、ZOOM開催による代替実施等、団体に委ねることがあった。

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
<p>○心のいずみ（ひきこもり当事者の集い） （第5回）令和3年9月27日（月）13時～15時</p>	<p>○心のいずみ（ひきこもり当事者の集い） （第5回）令和3年9月27日（月）13時～15時</p>
<p>会場：大網白里市中央公民館</p>	<p>会場：オンライン（ZOOM）</p>
<p>（第6回）令和4年1月17日（月）13時～15時</p>	<p>参加者：1.4名 （第6回）令和4年1月17日（月）13時～15時</p>
<p>会場：大網白里市中央公民館</p>	<p>会場：オンライン（ZOOM）</p>
<p>○ひきこもり家族の集い</p>	<p>参加者：1.0名</p>
<p>（第5回）令和3年7月19日（月）13時～15時</p>	<p>○ひきこもり家族の集い （第5回）令和3年7月19日（月）13時～15時</p>
<p>会場：大網白里市中央公民館</p>	<p>会場：大網白里市中央公民館</p>
<p>（第6回）令和3年11月15日（月）13時～15時</p>	<p>参加者：2.0名</p>
<p>会場：大網白里市中央公民館</p>	<p>（第6回）令和3年11月15日（月）13時～15時</p>
<p>○個別相談会</p>	<p>会場：大網白里市中央公民館</p>
<p>（第1回）令和3年8月16日（月）13時～15時</p>	<p>参加者：1.4名</p>
<p>会場：大網白里市中央公民館</p>	<p>○個別相談会</p>
<p>（第2回）令和3年10月18日（月）13時～15時</p>	<p>（第1回）令和3年8月16日（月）13時～15時 流会</p>
<p>会場：大網白里市中央公民館</p>	<p>（第2回）令和3年10月18日（月）13時～15時</p>
<p>（第3回）令和3年12月13日（月）13時～15時</p>	<p>会場：大網白里市中央公民館</p>
<p>会場：大網白里市中央公民館</p>	<p>相談者：2組</p>
<p>（第4回）令和4年2月21日（月）13時～15時</p>	<p>（第3回）令和3年12月13日（月）13時～15時</p>
<p>会場：大網白里市中央港公民館</p>	<p>相談者：2組</p>
<p>○市民公開講座</p>	<p>会場：大網白里市中央公民館</p>
<p>対象者：市民</p>	<p>（第4回）令和4年2月21日（月）13時～15時</p>
<p>実施方法：会場での講演会</p>	<p>会場：オンライン（ZOOM）</p>
<p>開催日：令和3年6月29日（火）13時30分～16時30分</p>	<p>相談者：2組</p>
<p>講演：「ひきこもりの現在・過去・未来～本人・家族・学生支援の現場レポート～」</p>	<p>○市民公開講座</p>
<p>講師：千葉県社会福祉士会 理事 秦野隆</p>	<p>対象者：市民</p>

治氏（社会福祉士・精神保健福祉士他）	実施方法：会場での講演会 開催日：令和3年6月29日（火）13時30分～16時30分 講演：「ひきこもりの現在・過去・未来～本人・家族・学生支援の現場レポート～」 講師：千葉県社会福祉士会 理事 秦野隆治氏（社会福祉士・精神保健福祉士他） 参加者：64名
--------------------	---

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input checked="" type="checkbox"/> 適正であった <input type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） 新型コロナウイルス感染下であったかあらこそ、事業の実施継続ができるよう工夫（感染対策及びオンラインの活用）することができた。また、事業を実施した際には、必ず、参加者が存在した。

#### 【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

（例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。）

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

<p>前述したとおり、コロナ禍において、人との交流を自粛するような世の中の流れではあったが、オンライン（ZOOM）を活用し、「新たな生活様式」を取り入れることで、事業を継続することが可能となり、また、参加する当事者及び家族も存在し、また、これまでは集団での参加が困難であった当事者でもオンライン（ZOOM）を活用することで、社会参加のきっかけとなった。</p> <p>参加者こそ、爆発的に増加をすることはなかった（むしろ、少人数が歓迎された時世）が、継続して実施することで、当事者及び家族が「久々に人と話をした」などと声を聴くことができたことは、質的に事業活性が図れた。</p> <p>また、今年度で補助金事業が終了する。コロナ禍でなければ、発展的な活動ができたのではないかと思われ、非常に残念であるが、このような中でも「中断」することなく、ま</p>
--

た、市民公開講座においては、具体的に住民のひきこもりに対する「声」を拾い上げることができた。

(市民の声 一部)

・支援には長い時間が必要なんですね。家族にとっても安心できる場所から始まるのですね。・どのように関わって行ったらよいかよくわからなかったところもありますが、糸口が見つかった。・支援者の方の地道な話を聞く時間は大切だと分かりました。生の事例はとても良かったです。ご家族の苦労と小さなステップの喜びがよく分かりました。そのきっかけをつかむのもとても大変だったろうと思います。・支援者の距離感について、年代やバックボーンが様々であることが再認識できました。どうやって開拓していくかも興味があります。・ひきこもり支援者のみなさんの支援力の高さに驚きました。それにより家族も変わって行って関係性も良好になることはすごいことだと思います。・他市の訪問サポーターが支援に入るという事業があること知りませんでしたので大変ありがたいです。・ネットワークの重要性を改めて感じた。支援のメニューが今後増えていくことを期待したい。・お父様の言葉…というのに病んだ。「弱さ」という言葉があったが(きっかけの中に)、弱さという言葉に収めてしまうことにとっても抵抗があった。当事者の方は必死に闘っている結果であり、逆に強いのではという思いがある。・ひとりでも多くの方が社会に出て来られると良い。・このような講座を継続してほしい。・学校の積極的な取り組みと他分野への情報提供(包括支援センター他の関わり)など教えていただけたら嬉しいです。・ひきこもり対応経験者が対象者に訪問相談で話を聞いてあげることが、重要なことだと思います。まずは信頼される人間関係の構築から。・自己肯定・達成感のある仕事。社会活動の提供が必要。・本人やその家族の交流の場がほしいです。本人は中々人と会おうとしないけど。抱えている問題を情報交換したい。・家族が気軽に相談できる場所が分からないので市民の方にもPRしてほしい。・関係機関の方々と当事者(自分は母親)が一緒になっていて、誰がどちらか分からないし居づらいと思いました。・住民の理解と取り巻く環境が大切だと思います。・誰もが「ひきこもり」になる可能性を持っていると思う。小中学校から長期欠席、不登校の情報を私ども民生委員に提供いただくが、学校側からの関わり方の指示はない。見守りにも限度があり、早期に積極的に関わるのが難しいのが現状。個別相談窓口の周知、徹底が必要だと思う。市役所の窓口相談に行くことができる人ばかりではない。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input type="checkbox"/> 強化、活性化した <input checked="" type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した <input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった (理由) 「密」を避けながらもできる限りの事業を行った。また、これまでは「対面」でなければ成立できない活動と思われていましたが、オンライン（ZOOM）を活用しても事業を継続することができる新たな発見ができた。

### 【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
<b>【行政サービスの充実・効果】</b> コロナ禍において、経済的な困窮状態の方が増加傾向にあったかと思われる。しかし、その背景には様々な生活課題を抱えている方も存在していたのではないと思われる。積極的な対面での事業を実施し、また、集団での参加を促すことが困難であったが、社会福祉課においてはオンライン（ZOOM）での実施を承知していただいたことで、事業継続が可能となり、双方の本事業の必要性について一定の理解・協働が図れた。 今後、事業化としていくことを視野に入れた場合には、国が令和3年度までに目指す「ひきこもり相談窓口の明確化」と令和5年度までの目指すプラットフォームの整備事業についての基盤づくりのきっかけになったら幸いです。
市
・同じ境遇、思いを持った方々が集うことにより、思いや悩みの共有に深みが出るとともに横のつながりが生まれることが期待出来た他、日常からひきこもり相談等、自立支援相談を専門的に行っている団体との協働は行政単独で進めるよりも効果的であったと評価いたします。 昨今、誰しもが悩み事を抱える中において、「解決できる悩み」、「自身で解決すべき問題」と「家族始め周囲が力となって解決すべき問題」、「解決できない問題」と様々ある中で、中長期的な支援を要する悩み事にあっては、専門的に当該相談にあたっている知見のある方の助言は不可欠、ひきこもり問題も例外ではないと考えました。 ・コロナ禍においても団体の実施報告において、予約者～組、ほか相談～件といったように切れ目なく予約が入っていたとの報告をいただいております、一定のニーズがあることが窺

えましたが、往々にして目的を見失いかねない危うさ（ひきこもりから脱却し自立することが目的なのか、思いを当事者間で共有することが目的なのか）も含まれることに留意しなければならず、双方で参加者の当協働事業終了後も見据えた着地点の模索が必要と感じました。

また、その協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<p> <input type="checkbox"/> 効果があった  <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった  <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。            （理由）            ひきこもりは、複合的な課題を抱えた広い世代にかかわる課題であるため、行政内での担当窓口の明確化は困難であるが、重層的相談支援体制の構築と合わせて検討課題の一つのトリガーになったのではないかと思います。            また、望まれていた全世帯アンケートや広く周知活動においては、行政の今後の住民福祉サービスの向上のため必要不可欠であるが、それには、十分な予算化とに社会調査のスキルが必要であると思われる。         </p>	<p> <input type="checkbox"/> 効果があった  <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった  <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。            （理由）            事業に参加した方々の“つながり”と居場所づくりに一定程度貢献できたと思われるため         </p>